

パブコメ集計結果(戦略的基礎科学研究強化プログラム)

1. 総数: 34件

2. 賛否について:

○賛成:	27件
○賛成だが施策の改善見直しの意見を含むもの:	4件
○反対:	3件
計	34件

(賛否の考え方)

- ・主旨に賛成の文意を含むものは全て賛成に判定。
- ・「賛成だが施策の改善見直しの意見のあるもの」は基本的には賛成だが、施策の実施にあたっての改善、見直し方策について記述されているものを集計。

(参考)

① 賛成

- ・ 狭く、資源の乏しい我が国が世界の中で地位を保ち豊かであり続けるためには、新規性の高い基礎科学研究が必須である。新しい基礎研究は成果が出るまでに時間がかかり、民間の助成を得にくい。国が長期的視野に立って、比較的若い研究者の挑戦的な研究を支援すべきである。
- ・ 企業が手を出さない(経済効果が低い)研究こそ、国がバックアップをしてあげなければ、優秀な人材が海外にどんどん流出してしまい、数年後には世界の中で研究に関して後進国になってしまうのではないか。
- ・ 基礎科学への投資を継続的に行う事が重要。基礎科学を代表とする科学技術の多くは、費用対効果を議論することは意味がない。むしろ、効果の上がった事業の事後評価をきちんと行い、10%の確率くらいで効果が現れるくらいが良いところ。

② 賛成だが施策の改善見直しの意見を含むもの

- ・ ぜひ進めてほしい。しかし、1件あたりの予算額が大きすぎないか。また、応募されたものが本当に「基礎科学」なのか、きちんとピアレビューによる審査と採択ができるか。
- ・ 現在の方針は既に大きな成果を上げている研究者に研究費を投資するものであり、例えば1件5億円とするよりも、1件1億円にして5倍の研究に当てる方が良い。
- ・ 特定の領域の特定の優れた研究者を選んで多額の資金を集中する方式は、似たような内容のプログラムが他省庁でも良く行われている。領域の選定には十分な配慮が必要であり、特定の組織・研究者に集中し過ぎないように、他省庁との連携に留意が必要である。

③反対

- ・ 必要ない。基盤的な予算や若手向け予算を増やす方がよい。潜在能力の優れた研究者を選定するのは、有識者委員会といえども短時間の審査では困難。客観的な基準がないと、有力者の子弟が採択されるだけではないか。
- ・ 「広い視野を持つ優れた目利き」の難しさは明らか。年間研究費也多すぎる。これだけの研究費を使って成果が出ない時には、会社ならば担当者は責任を負う事になるが、この場合誰が責任を負うのか。
- ・ 縮減すべき。本事業では「イノベーション創出」という成果設定が明確にされているため、基礎科学の強化ではなく、実用性の見えやすい応用科学を支援するものとなっている。